雪解の水に 甦る をは名のみの春なれど なず よみがえ 吾れ憧れし美の国の

野面に充ち満つ生命あり

鐘声はろかに快よししょうせい 今日も手稲山に夕映えて 寮友と 睦の杯酌めば 遠くふるさと離れ来し

つきるを知らぬ吾が懐い

夜空彩る北斗星 囲む焚火も暗に消えかるたきびをみまった。 静寂の夜は更けゆきて ただ茫漠の大平野

紫紺の峰をこえゆきて燥の木蔭に憩せば 父母いかに君いかに

> 佐藤 佐伯 政英君 正君 作曲 作歌